



東京タイムス新聞抄譯  
保護稅上英國ノ新說



4257



114  
A 3267



上英國新説

天正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

レタリ 諸米國人民ガ其産物ト製造ニ出精勉強  
セシ實況ハ本會ノ縦覽者タリシ人々何レモ其  
列品ヲ觀テ感服セザルハナシ。米國出品ノ部分  
ハ製造方皆上出来ナリト世ニ信用セラレタリ。  
近頃我「タイムス」新聞紙ノ名也ニ載タル手簡ニ  
曰ク「カピテイン、ドグラス、ガルトン氏ハ九ソ二十  
年前ニ米國ニ興行セシ博覽會ト今度ノ會ト比  
べ當博覽會ノ出来振リヲ審査サレリ然ルニ

保護税法ノ議論ニハ係ハラズシテ其費拉地  
費府ニ登シタル博覽會列品ノ出来振りハ先ツ  
第一保護税ノ功能ニ因テ茲ニ至レルモノナリ  
ト証セラレタリ。此証左ハカルトン氏ガ貿易論  
ヲ善ク了解セルヲ以テ數多ノ通信者ヨリ米國  
製造上ニ登シタル弊力ノ景況ヲ種々様々ニ報  
告セラレタルトニ依テ斯ク簡畧ニ且ツ明カナ  
ル証據トナレリ。米國ニ於テ當今諸營業中我英  
人ト最モ烈シク競争スル所ノモノニシテ我英  
人殊更ニ自國ノ專業ナリト思居タル錢物商

賣ノ質驗<sup>1</sup>カルトン氏ガ甚ク注意シタル眼  
目ナリ。此ノ如キ事情ハ英國人ノ當ニ注意スベ  
キ場合ナレバ吾輩ハカルトン氏ノ說ニ一致セ  
ザルヲ得ズ。石様緊要ナル教課ヲ示サレタレバ  
吾英國タル者之ヲ心掛ケテ怠ラザルハ米國製造者  
ガ貿易市場ニ於テ我輩ト競フニ畢竟彼ヨリ我  
ヲ永ク放逐スルニハアラズシテ我英國諸營業  
ノ為ニ却テ將來ノ手引トモ相成ルベキ機會ニ  
益々誘導スルト知得ベキモノナリ  
〔ガタイムス〕

○  
一國人民ノ有様ヲ進歩セシムル順序ニ於テ保  
護税法ナル者ハ善良ノ方向ナリヤ又近年米國  
政府ノ採用セシ立法(按スルニ保護稅ハ所謂保  
護稅政法ノ最モ至強ナル試看ナリヤ否ヤ仍ホ  
未タ斯考最中ト見做スモ可ナラン。米國近年ニ  
至リ種々ノ手段ヲ用ヒ製造職業ニ實地骨折ル  
者ヲ引立テタリ就中最モ感心スベキハ前水曜  
日ニ我新聞府下雜報ノ部ニ刊行セシ或ル製造  
者ノ簡略ニ云ヒタリ。其文ニ保護稅法ヲ以テ夫

配々ルニ我國製造者ガ成シ遂ケタル進歩ノ  
度ニ甚タ貴重スルニ於テ「ガルトン」氏ノ説ト  
一致セシトヲ述ベラレタリ。米國ノ人民ガ機械  
巧練ノ為ニ非常ノ給與ヲ受ケルトハ吾輩ノ屢  
々証スル所ナリ。借此巧練ヲ得タルモ全ク保護  
稅法ノ助ニ依テ教育サレタル為ト規則正シキ  
教方ニテ導キタル高上ナル智慧トニ依テ斯ク  
迄製造職業上ニ付テ米國出生ノ人民ヲ大ニニ  
進歩セシメタルコソ實ハ驚嘆スベキ程ニアラ  
ザルナリ。  
〔レ、ク、イ、ム、ス〕

○  
及今經濟上ニ於テ不正ノ論ト見做スモ米國ニ  
在テハ保護稅法ガ却テ實地ノ功ヲ成シテ都合  
ヨクアリシトハ承知セザルヲ得ス。夫故ニ米國  
人民ハ漸々ニ歐羅巴品ヲ仰ガザルニ至レリ其  
証據ニハ夫ノ有名ナル什非耳土(英國ニ名高キ  
鉄物製造所也)  
ノ輸出貿易ハ此節次第ニ衰微セリ殊ニ旧來ノ  
或ル一商社ハ其製造品ヲ米國ニ賣込マントス  
ルモ米國輸入稅ノ高キガ爲ニ引合ヒ兼遂ニ餘  
義ハ其ニ屬セル一切ノ機械并ニ職人ヲ

モ州ニ移サント企テタリ。久シカラザレ  
内ニ米國ハ必ス其保護稅主張者ノ初策ヲ廢棄  
スルニ充分ナリトノ思想ヲ起スベシ乍米國  
製造者ノ位置カ仍ホ幼稚ノ有様ニ居ル間ニ右  
ノ初策モ無用物ニシテ米國ハ左様ナル策ヲ設ケ  
ザルモ幾久シク繁榮スルモノナラバ之レヲ廢  
棄スルナド、云フ説ノ起ルベキ筈モナキトナ  
ラン  
〔ゼ、ガラヒック〕

○  
暫時中絶セシ一問題ノ近頃「タイム」新聞上ニ

註  
地位ヲ得且ナル去トハ英國ノ製造品ヲ盛ニシ  
歐陸諸國ニ賣込ムル諸國ノ製造家ガ自己  
未カク諸國人モ亦敢テ勉強シ遠ニ  
五物ヲ盛ニシ英ヨリ輸送スルヲ防ヘシ

載セラレタルモノアリ其趣意ハ外國ノ情ニ就  
テ向テ直接ニ切迫ナル激論ニ屬スト虽亦注  
意スベキ事柄ナリ。諸大凡事物二個ノ題ニハ實  
ニ判然タル關係ヲ持ツモノナリ。歐羅巴大陸ノ  
スルテ漸ク甚シケレバ英國権力ノ  
ヲ評論セント益々大切ナリ。中畧我  
決ハハガ従来自己ヲ富マス根本タル肝要ナル  
製造品營業ノ他國ニ勝ルヲ以テ諸國ヨリ攻撃  
ヲ試ムルモノアリ就中吾輩ハ該營業筋ニ熟練  
シタ人ニ考ニ仍テ現今脅迫セラレ、ナリ

我大英國ノ地位ガ是迄久シク占居タル數多ノ留  
易市場ニ大功效アリシ夫ノ專賣特權ハ此節ニ  
至リ諸國ヨリ種々様々ニ辯論ト批難ヲ蒙ムレ  
ル。抑英國製造家ガ諸品物ヲ造出シ世界中ニ  
買客ヲ保テルモ仍ホ次ノ三種類即チ絹織物、綿  
織物、陶器ニ至テハ佛國ノ製造家ト相競フテ常  
ニ勝負ヲ決セント欲スル物品ナリ。又現ニ英國  
或製造者ノ報告ニ據レバ魯斯亞ハ絹織物、日本  
ハ金物、緞工、瑞典ハ銀錢、西班牙ハメリヤス及  
ヒ絹織物ノ梅方ニ於テ我英國製造品ヲ打越エ

載セラレタルモノアリ其趣意ハ外國事情ニ就  
テ向テ直接ニ切迫ナル激論ニ属スト虽亦注  
意スベキ事柄ナリ。諸大凡事物二個ノ題ニハ實  
ニ判然タル關係ヲ持ツモノナリ。歐羅巴大陸ノ  
地位ヲ脅迫スルト漸ク甚シケレバ英國権力ノ  
實因ト期望ヲ評論セント益々大切ナリ。中畧我  
英人ハガ従来自己ヲ富マス根本タル肝要ナル  
製造品營業ノ他國ニ勝ルヲ以テ諸國ヨリ攻撃  
ヲ試ムルモノアリ就中吾輩ハ該營業筋ニ熟練  
シタ人ニ考ニ仍テ現今脅迫セラレ、ナリ

我大英國ハ是迄久シク占居タル數多ノ留  
易市場ニ大功效アリシ夫ノ專賣特權ハ此節ニ  
至リ諸國ヨリ種々様々ニ辯論ト批難ヲ蒙ムレ  
ル。抑英國製造家ガ諸品物ヲ造出シ世界中ニ  
買客ヲ保テルモ仍ホ次ノ三種類即チ絹織物、綿  
織物、陶器ニ至テハ佛國ノ製造家ト相競フテ常  
ニ勝負ヲ決セント欲スル物品ナリ。又現ニ英國  
或製造者ノ報告ニ據レバ魯斯亞ハ絹織物、日本  
ハ金物、緞工、瑞典ハ銀錢、西班牙ハメリヤス及  
ヒ絹織物ノ梅方ニ於テ我英國製造品打越エ

ント試ミル様子ナリ加之右瑞典西坂ノ兩國  
ハ頰ニ毛織物ヲ製シ又日本瑞典ノ西國ハ陶器  
ノ造方ニ頗ル盡カスト云々去リナガラ又米國  
人民ノ期望スル競ヒ方ハ右ノ諸國ト異リテ其  
競争ノ形狀餘程遠大ナルガ如シ是ヲ以テ觀レ  
バ保護稅ノ功驗ハ物品ヲ製出スルトテ其人民  
ニ功益スル勢頗ル洪大ナルモノナリ。借右ノ報  
告ヲ一旦承知シタル人々ノ中ニモ如此競争ハ  
從前我英國人ガ他國製造者ニ一歩タリテ讓リ  
シトキニステ今更此說ヲ不快ニ思ヒ且ツ品

物製シハ英ノ固有ノ商賣ナリト空ニ信スル所  
ヨリシテ此報告ハ英國自己ノ名譽ヲ破ルトテ  
脅迫スルモノナリト誤認シ只管頑固ノ僻論ヲ  
主張ハル徒モ往々アル由ナリ。箇様ノ人々ハ井  
底ノ蛙ニシテ外國ノ製造者就中米國人民ガ今  
必至ト競争ノ進路ニ居テ勉強シタル製造品ヲ  
自ラ觀ンガ為ニ費拉地費府ニ趣ク勞ニタモ堪  
エザル者ナラシ。右ノ如キ次第故我英國製造家  
モ只自國ニ在ル同業者ト相競フトテ代リニ外  
國ノ製造家ト巴レノ工業ヲ比較シテ其分勉強



スベシト忠告ヲ典フル善良ナル政客施行ア  
ケントヲ我輩ハ頻リニ希望スルモノナリ。

〔ホール、モール、ガゼット〕

保護税策ト云フモノ、功能論ハ儲置キ今實地  
ニ就テ英米兩國ノ鑄物場共ニ鍊鋼鉄等ノ製造  
場ノ規ニ立ツル員數甚タ夥シト虽其員數ノ  
増方ニ至テハ保護税ノ誘導ヲ受タル方が進歩  
ノ迅速ニシテ屹度先登スルモノ、如シ左ニ述  
年興一サ、タル石炭礦業ノ總計ヲ比較シ其

増數ハ優劣ヲ証スベシ。千八百七十三中米國ニ  
於テ掘出シタル石炭ノ總數ハ凡ソ三千二百万  
噸ナルニ同年中大英國ニテ掘出シタル總數ハ  
壹億一千三百万噸ヲ以テ比較サレシガ千八百  
七十四年ニ至テハ米國ノ分惣計五千万噸ナル  
ニ英國ノ分ハ一億二千五百万噸ヲ以テ比較サ  
レタリ。儲又米國ニ於テハ一千八百七十四年中  
掘出シタル石炭ノ内凡ソ五十万噸丈ヶ輸出サ  
レタリ。尤其内四十万噸位ハ嘉那多地方ニ輸出  
セリ。米國製造家ガ成シ遂ケタル大進歩ト其辛

抱強キ丁ハ當是迄我英國ヨリ米國內一賣込ミ  
来リシ得意場ヲ迄々ノ間ニ米國人自ラノ得意  
場ト成ス而已チラス且又後來米國製造人ハ必  
ス世界中開港場ナル各貿易市場ニ於テ我英國  
ノ為ニ鼠モ肝要ナル鉄細工綿織物等ノ如キ製  
造品ト雖モ我英高ト相競フニ至ルベシ故ニ吾  
輩ノ頃ノ其用心ヲ做サハル可ラズ英國人民夕  
ル者右ノ一件ニ付テ着實ニ其地位ヲ保續セン  
トヲ努力セント甚タ肝要ノ事業ニコソアル

タイムス社中カピテン・インガルト

拙者費拉地費府ノ博覽會ヲ三個月餘モ緩々縱  
覽セシ後飯國セシガ拙者ノ心中甚タ感慨ヲ起  
シタルトアリ別儀ニハ無之全体是迄我英國ハ  
諸物貨製造專業國ト思居リシニ意外ノ變遷モ  
アレハ有ルモノナリ拙者ハ一千八百五十年以  
来諸方ノ万国博覽會ニ深ク注意セシニ我英國  
モ色々ノ職業ニ付テ他國ヨリ烈シク競争サレ  
シト鮮カラズ且又或職業ニ至テハ将来英國ハ  
従前ノ地位ヲ保チ能ハサルベシ若シ之レヲ辛

ウレテ維持ニ得ルに段々英國人民營業ノ衰微  
ヲ致スノ兆アリ是レ拙者一人ノ私論ニアラス  
巧妙ナル鑒定家ノ考説ナリ。偕去月三十一日夕  
イムス新聞紙上ニ或ル製造家ト云フ稱号ヲ以  
テ投書アリタリ其文ニ曰ク米國人ハ我英國ノ  
為ニ最モ危険ナル争競者タルベキ様子アリ云  
云ト拙者ハ此投書家ニ頗ル同意セリ故ニ此持  
論ト見識ヲ補助スル為ニ甘服セサルヲ得ス。拙  
者ハ近年來米國製造者ノ速カニ進歩セル有様  
ヲ綿帑ニ心付タリ。嗚乎米國人民ノ精神ト企望

ハ實ニ際限ナキ程ナリ。米國人ハ英吉利、白耳義  
日耳曼并ニ佛朗西ノ最モ新式ニメ且ツ極精密  
ノ機械ヲ拵エシトテ聞クハ直ニ之レヲ輸入  
シ新ヘ之レカ為ニ右ノ各國ニ派出シタル委員  
ノ手ヲ經テ右機械取扱ヒニ熟練シタル職人ヲ  
僱込ムトテ試ミラレタリ就中我英國ノ職人ヲ  
ハ一層貴重シテ抱入レラ要サレタリキ此ノ如  
キ師範ヲ得テ其本國內ニ巧者ナル職人一群隊  
ヲ調練セリ。拙者ハ無テ信任セル朋友ノ陳述ト  
且ツ拙者自身實地經驗ノ所ヨリシテ左ニ評論

ス夫レ米國人ガ製出シタル鏡、羊毛、木綿等ノ職  
業及ヒ一種ノ絹織物ニ至テハ我英國ノ精好品  
ト全ク同品位ナリト謂フベシ(中畧)又米國獨リ  
斯ノ如キ批評ヲ受クル而已ナラス佛朗西、白耳義  
并ニ日耳曼ハ昔ヨリ我英吉利ト工業上ノ争  
競者ニシテ永久互ニ利害ノ關係ヲ起スニアリキ  
然ルヲ况ンヤ是迄世人モ盛大ノ製造所トハ大  
概思ハサリシ諸外國ノ中ニモ現今ハ甚々盛  
ナル製造カラ占メタル者少カラザルニ於テヤ  
但シ未タ俄ニ我英國ノ工作ト同一ノ場合ニ立

到ラサルハ是等數國ノ貿易市場ヨリ我英國製  
ノ物品ヲ退却セシムルニハ充分ノ位置ニ至レ  
ル者アリ、偕又茲ニ瑞典ノ毛織物、陶器并ニ鍛鏡、  
西班牙ノメリヤス、綿織物、并ニ毛織物、魯斯亞ノ  
絹物、加那多ノ機械并ニ毛織物、及ヒ日本ノ陶器  
ト鎗器ニ於ケルガ如キハ夫レ既ニ箇様ニ工達  
セシハ感スルニ餘アリ決テ容易ノ業ニアラサ  
ルナリ就テハ右數國ノ製品輸出高ヲ表ニ組立テ、  
參觀スル片ハ實ニ驚クベキ次第ナリ(中略)米國  
人ノ其所謂國內產出製造品ノ盛大ナルガ為ニ

近頃拙者ハ米國貿易市場ヨリ多ク積戻サレタ  
ル所ノ我英國産物ノ品柄ヲ詳知スルヲ得タ  
リ此積戻サレタル物品、中英米孰レカ優レルヤ  
悉ク證明シ得ベシト虽拙者ノ口ヨリ言フニ忍  
ヒザルモノアリ。物ニヨリ僅一ヶ年前ノ品物ヲ  
今日ノ價格ニ比較スレバ三割五分モ安ク同品  
ヲ米國ニ製出ス故ニ自餘ノ物品モ亦英國産出  
ノ中ニテ同様ノ差響ヲ受テ最早輸出シ難キ物  
アルヲ拙者ハ何時ニテモ指示シ得ベシ。

〔タイムス社員〕

○

什非耳土日々電信（英國「シエポール」ト云フ）ニ刊  
行シタル「什非耳土」ハ米國ニ移ルト云フ標題ヲ  
以テ世ニ報知セシ者ニ依レハ同所鋼鋳製造者  
ナル「サンダソ」「ブラサス」ノ西氏ニ属セル彼ノ  
高名ナル什非耳土高會ハ是迄其製造品ヲ米國  
ニ輸入シ来リシガ米國政府ヨリ右等ノ鋼鋳品  
ニ格外高キ輸入税ヲ掛ル為メ此保護税ニ打向ッ  
テ米國內製ノ鋼鋳製造者ト迎モ争競スルヲ出  
来サレバ恰モ敵陣内ニ短兵肉薄スルガ如ク已

レノ營業一切ノ機械等ヲ携テ紐育州ノ士刺言  
西ハ更ニ製造場ヲ建設スルトニ決定セリ云々。  
又右商會社負ヨリ米國及ビ加那多ノ得意先  
キハ移轉ノ趣向ヲ報告シテ曰ク當社鑄工營業  
ノ儀ハ米國貿易ノ元祖ニシテ既ニ早一千七百七  
十六年ニ於テ當社創立者死去セシ以來今日ニ  
至ルマテ引續キ凡ソ鑄造工作ニ付テ最モ永續  
セシ社ナレハ世間ニ拔羣ノ譽ヲ得從テ結構ニ  
モ御勲負ヨ蒙リ英國ノ鋼鏡ヲ米國ニ運輸スル  
手引從相勤罷在候段難有仕合ニ奉存候云々(中

畧)後來ノ為ニ右什非耳土社ヨリ報知セシ口上  
ニ當社米國內ニ引越候共米國在來ノ同業諸社  
ハハ勿論甚タ洪大ナル利益ヲ保存致シ隨テ當  
什非耳土社自家ノ為ト亞米利加大洲ノ為ニ相  
成候様專ラ尽力可仕云々  
〔タイムス〕



